

第 68 回国連総会におけるポスト 2015 年開発アジェンダに関する議論 (全体像)

平成 25 年 9 月 26 日
地球規模課題総括課

- 1 今回国連総会の統一テーマは「ポスト 2015 年開発アジェンダ：土台作り (setting the stage) !」であり、ミレニアム開発目標 (MDGs) 及びポスト 2015 年開発アジェンダについて、積極的な議論が行われた。
- 2 9 月 25 日 (水) (ニューヨーク時間。以下同じ) には、国連総会議長の主催により MDGs 特別イベントが開催され、首脳成果文書 (概要：別添 1) が採択された。この成果文書では、2015 年の期限に向けて MDGs の進捗を加速化することを確認するとともに、ポスト 2015 年開発アジェンダの政府間交渉を次期 (第 69 回) 国連総会で開始し、2015 年 9 月に首脳級サミットを開催して採択することが決定された。
- 3 日本は、これまでポスト 2015 年開発アジェンダに関する議論を積極的に牽引してきており、今回国連総会においても、26 日 (木) の一般討論演説において、安倍総理大臣から、人間の安全保障の概念の重要性や、「女性が輝く社会」の実現を目指す開発思想等を発信。25 日 (水) の MDGs 特別イベントには安倍総理大臣が出席し、ポスト 2015 年開発アジェンダにおいては人間の安全保障を指導理念として極度の貧困の撲滅を目指すべきであり、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) や防災の主流化を特に重視する旨述べた (ステートメント全文：別添 2)。また、23 日 (月) には国連開発グループ (UNDG) と共催したポスト 2015 年開発アジェンダサイドイベントに岸田外務大臣が出席し、経済成長と雇用創出により極度の貧困の撲滅を目指し、社会の歪みへの対処や脆弱層への配慮のため人間の安全保障を指導理念とすべきである旨述べた (ステートメント全文：別添 3)。
- 4 特に日本が重視している保健分野については、国連総会前に安倍総理大臣が国際的医学雑誌『ランセット』に寄稿し、UHC の重要性について発信した上で、25 日 (水) にジャパン・ソサエティにおいて岸田外務大臣の議長の下サイドイベント「ポスト 2015 年：保健と開発」を開催した (概要：別添 4)。このサイドイベントでは、安倍総理大臣からポスト 2015 年開発アジェンダにおける UHC の主流化の重要性を訴え、参加したクラーク国連開発計画総裁、キム世界銀行総裁、チャン世界保健機関 (WHO) 事務局長等は、開発における UHC の重要性について指摘するとともに、人間の安全保障と保健分野における日本のリーダーシップに対する高い評価を表明した。

ミレニアム開発目標 (MDGs) 特別イベント首脳成果文書 (概要)

9月25日(水)、ニューヨーク国連本部において、国連総会議長の主催により行われた MDGs 特別イベントで採択された首脳成果文書の概要は以下のとおり。

1 前文

- (1) 850 日以下に迫った MDGs の達成期限を前に、目標へのコミットメントを新たにするとともに、2015 年までの目標達成に向けた取組の強化を決意。
- (2) MDGs は共通のビジョンを提供し、これまでいくつかのターゲットが達成されているが、達成の不均等や残された課題を懸念。すべての目標において進捗の加速化が必要。

2 進捗の加速化

進捗の加速化の取組においては、包摂性を強調し、特に脆弱層に注目。ジェンダー平等の推進や女性の能力強化が進捗の加速化に資する。

3 開発のためのグローバル・パートナーシップ

- (1) 国家のオーナーシップが重要であり、MDGs 達成のためにはそれを支える国際的な支援や環境が必要。官民、国内外の資源の動員と効果的使用が極めて重要。
- (2) 人権、グッドガバナンス、法の支配、透明性、説明責任の重要性を再確認。
- (3) 国民総所得 (GNI) の 0.7% を ODA に充てることを含め、先進国がこれまでに行った約束を達成するよう要請。

4 ポスト 2015 年開発アジェンダ

- (1) MDGs を基礎とし、未達成部分を達成するとともに、新たな課題に対応するような力強いポスト 2015 年開発アジェンダの策定を決意。
- (2) ミレニアム宣言、リオ+20 成果文書、モンテレー・コンセンサス等へのコミットメントとこれらに含まれる原則を再確認。共通だが差異ある責任の原則 (CBDR) を含め、環境と開発に関するリオ宣言に書かれた原則を再確認。
- (3) ポスト 2015 年開発アジェンダは貧困撲滅と持続可能な開発に対する国際社会のコミットメントを強化するべき。貧困撲滅の中心的緊要性及び持続可能な開発の内在的な連関を認識し、単一の目標枠組に向けた一貫性のあるアプローチの必要性を強調。
- (4) ポスト 2015 年開発アジェンダの採択のための政府間交渉を第 69 回国連総会冒頭に開始することを決定。
- (5) 包摂的で人間中心のポスト 2015 年開発アジェンダの設定のために、市民社会を始めとする様々なステークホルダーからのインプットを含む透明な政府間プロセスを期待。
- (6) 国連システムの強力な支援を期待。国連事務総長に対し、2014 年末までにすべてのインプットを統合した報告書の提出を求める。
- (7) 2015 年 9 月の首脳級サミットでポスト 2015 年開発アジェンダを採択する。(了)

(別添2)

ミレニアム開発目標 (MDGs) 特別イベント
安倍総理ステートメント
(9月25日(水) 於: 国連信託統治理事会議場)

議長、
御列席の皆様、

本日の特別イベントを主催されたアッシュ新国連総会議長に、日本国政府を代表して感謝申し上げます。

現行 MDGs の達成に向けて国際社会が協力してきた結果、これまで多くの進展がありました。しかし、達成されていない目標はまだ多くあります。2015 年の期限に向け、我々は目標達成のための努力を加速していかなければなりません。

また、MDGs の成功と教訓を踏まえ、ポスト 2015 年開発目標では、国内格差の拡大への対応と、持続可能な開発に配慮しつつ、極度の貧困撲滅を実現し、万人が持続的繁栄を享受できる基盤を作るべきです。

そのような基盤を作るためには、ポスト 2015 年開発目標において、人間の安全保障を指導理念とすることが不可欠です。開発の果実は、あくまで人間一人ひとりにもたらされなければなりません。個人の保護及び能力強化を通じた社会づくり、国づくりなくして、持続可能な開発はありえません。この点については本年6月の TICAD V でも、アフリカの首脳と認識を共有しました。

人間の安全保障の理念の下、取り組むべき課題は数多くあります。女性、貧困、教育、保健衛生など、我が国は引き続き力を入れて取り組んでいく決意です。私が重視する分野の一つ、女性が輝く社会の実現については、明日、一般討論演説の中で御説明する予定です。

次に、ポスト 2015 年開発目標との関係で私が力を入れている二つのアジェンダを御紹介します。

一つは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、UHC です。個別疾病中心から、人間個人を中心に捉える発想に立って、UHC を推進し、より高い健康、医療のニーズにこたえることを目指すべきです。

そして UHC を実現する鍵が、女性など脆弱な人々への対策です。私は、UHC の重要性を訴えるため、国際的医学雑誌のランセットに投稿し、また本日、保健と開発に関するサイドイベントを開催します。

もう一つは、防災の主流化です。災害は開発の成果を一瞬で破壊してしまいます。災害に負けない強靱な社会を作るためにも防災は重要です。東日本大震災等の大災害を経験してきた我が国は、その経験や教訓を、また防災技術、システムを世界と共有したいと考えています。2015年3月には仙台で第3回国連防災世界会議を開催しますので、皆様の協力をお願いします。

最後に、開発目標の達成に向けた取組においては、民間資金の活用や、新興国経済の活力の活用も含めて、国際社会の様々なステークホルダーが協力する新たなパートナーシップを目指す必要があります。

我が国も、日本としてふさわしい役割を果たすべく、官民挙げて知恵を絞り、その技術、人材、そして経験を生かし、貢献してまいります。

御静聴ありがとうございました。

(別添3)

国連総会・国連開発グループ（UNDG）主催サイドイベント
「人々のニーズ：ポスト2015年開発目標に関する世界規模協議の報告書」
岸田大臣ステートメント

（9月23日（月） 於：国連本部）

本日、このサイドイベントを主催されたクラーク議長に、日本国政府を代表して感謝申し上げます。

現行 MDGs の達成に向けて国際社会が協力してきた結果、これまで多くの進展がありました。しかし、達成されていない目標はまだ多くあります。2015 年の期限に向け、我々は目標達成のための努力を加速化しなければなりません。

同時に、ポスト2015年開発目標のプロセスは、様々なステークホルダーを巻き込んだ包摂的なものであるべきです。そうした観点から、国連開発グループによる世界規模協議を高く評価します。ポスト2015年開発目標は、MDGs の成功と教訓を踏まえ、新たな発想と強い決意で策定する必要があります。日本としては特に以下の3点が重要と考えます。

第一に、様々な開発目標を実現していくためには、経済成長と雇用創出が不可欠です。経済成長の基盤となるインフラを整備し、人材を育成し、成長で生み出された富を更に経済、社会の開発に投資していくことで、貧困の削減から更に踏み込んで、極度の貧困の撲滅を目指すことが可能になります。

第二に、現行 MDGs では必ずしも十分対応できていない、社会の歪みへの対処も必要です。国内格差の拡大への対応、地球環境の限界への考慮なくして、持続可能な開発はありえません。また、女性、子ども、若者、障害者、紛争地域で苦しむ人々など、社会の脆弱層に配慮し、「誰ひとりとして取り残さない」という覚悟で目標を立てる必要があります。

このような社会の脆弱層への配慮を含め、人間を中心にしたアプローチが重要です。また、開発の果実は、あくまで人間一人ひとりにもたらされなければなりません。個人の保護及び能力強化を通じた社会づくり、国づくりなくして、持続可能な開発はありえません。ポスト2015年開発目標においては、人間の安全保障こそ指導理念とすべきであると訴えたいと思います。

人間の安全保障に直結する課題として、例えばユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、UHC が挙げられます。個別疾病中心から、人間個人を中心に捉える発想に立って、UHC を推進し、より高い健康、医療のニーズにこたえることを目標とすべきです。

そして UHC を実現する鍵は、女性や障害者など、脆弱な人々への対策です。9 月 25 日、日本は、関係国・機関と共に、保健と開発に関するサイドイベントを開催いたします。

最後に、災害に負けない強靱な社会を作ることも人間中心に考える必要があります。被災者を支援、保護するとともに、人々が被災から立ち上がり、自立していくことは、人間の安全保障の理念そのものです。2 年前、未曾有の大震災を経験した被災地の仙台で、2015 年 3 月に第 3 回国連防災世界会議を開催します。皆様の御協力をお願いします。

エネルギーや食料、水、環境汚染、気候変動など、世界は山積する問題に直面しています。途上国も先進国も、現行 MDGs の達成のため協力して取り組むとともに、2015 年には、さらに包摂的で野心的な目標を立てる必要があります。日本は、人間の安全保障の理念を掲げて、そのような新しい国際開発目標の策定に向けて、引き続き国際社会と協力してまいります。

御静聴ありがとうございました。

(別添4)

第68回国連総会サイドイベント
「ポスト2015年：保健と開発」の開催について

平成25年9月25日

1 9月25日(水)午前11時(日本時間26日午前0時)から1時間半、ニューヨークのジャパン・ソサエティにおいて、ポスト2015年開発目標と保健に関するサイドイベントを我が国主催により実施しました。本サイドイベントでは、ポスト2015年開発目標におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC:全ての人々が基礎的保健医療サービスを受けられること)の有用性につき議論を行いました。岸田外務大臣が議長を務め、冒頭セッションでは安倍総理、クラークUNDP総裁、キム世銀総裁が挨拶を行いました。(総理ステートメント別添)。

2 第1部では、ポスト2015年開発目標におけるUHCの役割について、チャンWHO事務局長、カンファン仏開発担当大臣が発言を行いました。このセッションを通じ、多様化する保健ニーズに対応し、より公平な社会の実現を目指すUHCの重要性があらためて確認されました。

3 第2部では、ポスト2015年開発目標における国際課題の主要論点について議論が行われ、オシヨティメインUNFPA事務局長、ダレCHESTRAD・CEO、フォーシス Save the Children UK・CEOが発言を行い、続いてダイブル世界基金事務局長からも発言がありました。ここでは、UHCをどのようにポスト2015年開発目標に位置づけていくべきか、様々な視点からの意見が提起されました。

4 また、多くの発言者が、ランセット誌への安倍総理の寄稿に言及しつつ、人間の安全保障と保健分野における日本のリーダーシップに対する賛辞を述べていました。

5 最後に岸田大臣から総括発言を行い、MDGsで目標達成の遅れている保健分野の諸課題に対処するために、人間の安全保障及びそれを具現化したUHCという考えが重要であり、これらの点がポスト2015年開発目標の中に位置づけられるべきことを強調しました。

第 68 回国連総会サイドイベント「ポスト 2015 年：保健と開発」
安倍総理ステートメント
(9月25日(水) 於：ジャパン・ソサエティ)

御列席の皆様、

MDGs の達成期限が近づく今、2015 年より先にどのような世界を目指すべきかが問われています。この重要な時期に、ポスト 2015 年の課題を共に議論するため皆様にお集まりいただきました。日本国政府を代表して御礼申し上げます。

MDGs は国際社会の共通目標であり、素晴らしい成果をもたらしました。同時に、開発の恩恵を受ける人がいる一方で、多くの弱者が取り残されるなど問題は残されています。

「誰一人として取り残さない」。潘基文国連事務総長が立ち上げられたハイレベル・パネルが提言するこの言葉は、一人ひとりの異なる事情に着目し、個人の保護と能力強化を図る「人間の安全保障」の考えそのものです。この人間の安全保障の考えこそ、ポスト 2015 年開発目標を貫く指導理念にふさわしいと私は確信しております。

その人間の安全保障の理念を具現化する上で不可欠の分野が保健です。保健に関する MDGs 達成に遅れがあり、例えば、HIV/AIDS、マラリア、結核対策に取り組む「世界基金」への継続的支援が重要です。日本としても、来るべき第四次増資会合において、相応しい貢献をするつもりです。

一人ひとりが抱える様々な保健ニーズに対応するために、すべての人が基礎的保健医療サービスにアクセスできること、すなわちユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の実現を目指します。UHC は、保健サービスへのアクセス格差をなくし、女性を始めとする脆弱層を含む国民全体の健康向上を実現します。

本年 5 月、日本は国際保健外交戦略を策定し、国際保健を外交戦略の柱の一つと位置づけました。日本は各国と協調し、各国の UHC 達成を支援する考えです。具体的な方策として、技術協力に加え、保健を優先分野化して円借款の供与条件を緩和するなどの政策をとっています。

UHC の達成は、人々の健康改善だけでなく、経済成長にも大きく寄与します。日本が国民皆保険を導入したのは 1961 年、戦後復興期を終えこれから大きく発展しようとしていた時期でした。UHC の達成が一つの要因となり、日本は、健康で教育レベルの高い中間層に支えられて高度経済成長を続け、世界第 2 位の経済大国となりました。今日の日本の繁栄は、保健医療に支えられた経済成長の賜です。国民の健康なくして国の発展なし。日本は開発における UHC の成果を体現してきた国なのです。

UHC の成果を知る日本だからこそ、ポスト 2015 年開発目標において UHC を推進する責務があります。健康に対する人々の願いは世界共通です。私は本日の議論を通じ、

各国・機関，学界，市民社会，企業等あらゆるアクターと協力しつつ，ポスト 2015 年における UHC の主流化を進めて参りたいと思います。

御清聴ありがとうございました。